

---

# オルタナ

椎名

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オルタナ

### 【Nコード】

N0279BA

### 【作者名】

椎名

### 【あらすじ】

正義を誤り、犠牲が生まれた。

(前書き)

ご閲覧頂き誠にありがとうございます。

私は、彼が死んだ時用の予防線だ。もつとも、彼が死ぬようなことが起これば私など何の役にも立たない。だから、私は代替品であり欠陥品なのだ。

そして、彼は、消耗品だ。

「おはよう、オルタナ。今日も空が赤いね」

私が部屋にこもったままでいると、彼が朝食を持ってやって来た。四分の一ほどのパンと脱脂粉乳が並べてあり、その横には乾燥肉が置いてある。

「おはよう、ジル。……駐屯地の襲撃、ついに明日なのね」

私の言葉に、ジルは大きく頷いた。

近頃目立ち始めた軍の財の私物化に、私とジルは苦しめられていた。そんな中、反政府組織であるアドリビトゥムは、私達の町を解放してくれたのだ。

「心配ないよ。僕らがやっていることは正しいんだ。だって、僕らはアドリビトゥム??自由のために戦ってるんだから」

今、私は、守る側の人間になった。

守る彼を、補強するための“モノ”なった。

「けれど、正義があっても命がなければ意味がないわ」

正義で空腹は満たせないし、自由で紛争は無くならない。そんなこと、ジルだって分かっているはずだ。しかし、彼は寂しそうに首を横に振る。

「じゃあ、僕が死んだら君の中に僕って存在は欠片も残らないのか？」

彼は、そう言って部屋を出た。私は呆然として何も言えなかった。

その日は、もう彼と話すことも、顔を見ることさえなかった。

そして、それが最後になった。

「ジルは本当によくやってくれた。おかげで作戦は大成功だったよ。」

世界はまた良い方に近づいた。これもまた、尊い犠牲だ！」

尊くない命なんてない。

尊い犠牲なんてない。

例えばがそうでも、ジルだけは違う。

「???ツ」

私は踵を返して駆け出す。ジルの死を尊いだなんて言う奴らと一緒にいたくなかった。私は急いでカタパルトに仕掛けをし、MS・406に乗り込む。かつてジルが使っていた機体だ。私が乗っても問題ないだろう。

私は、彼の代替品なのだから。

「MS・406、オルタナ???いきます」

射出の瞬間、かなりの重力が私を襲う。私は必死に体勢を整え、なんとか持ちこたえた。基地の方に向きなおり、HS・404の機関砲を指令台へと向ける。

「オルタナ……貴様裏切るといふのか？ 何故、お前が???」

取り付けてあった回線からボスの声が聞こえる。私は反射的にそれを切った。今はエンジンの音だけ聞きたかった。

そのエンジンを動かすための鍵には、小さなキーホルダーがついていて。

お揃いだと言って、二人で買ったものだった。

今では一つになってしまったけれど、思い出は確かにそこにあった。

「ねえ、ジル。私の命は尊かった？」

問いかける声に返事はない。しかし、それで良かった。

私は基地から離れ、最大速でその場を去った。カタパルトをロックしたため、追っ手が来るまでまだ時間があるだろう。

ようやくついたのは明け方だった。私はその忌まわしい場所???かつて駐屯地だった場所を上空から見下ろす。まさに無惨という言葉がぴったりだ。

しばらく探すうちに、目的のものを見つけた。私は近くに機体を

降ろし、それにかける。

そこには、もう一人の私が出た。

壊れた機体にはお揃いのキーホルダー。その側で、彼は静かに眠っていた。冷たくなった手を重ねて、思考は閉ざされる。

追っ手が着いた頃には、美しい草花が二人を守るようにして咲き誇っていた。

(後書き)

最後までお読み頂き誠にありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0279ba/>

---

オルタナ

2012年1月4日05時47分発行